

角川武蔵野ミュージアム
Kadokawa Culture Museum公益財団法人
角川文化振興財団
Kadokawa Culture Promotion Foundation公益財団法人角川文化振興財団
2025年4月22日

昭和 100 年を迎える 2025 年に 上條安里の美術と池上彰の解説、そして荒俣宏のコレクションで その魅力を体感し再発見する「昭和 100 年展」を開催

公益財団法人 角川文化振興財団（所在地：東京都千代田区、理事長：川上量生、以下 角川文化振興財団）は、「ところざわサクラタウン」内、「角川武蔵野ミュージアム」（館長：池上彰）の4Fエディット アンド アートギャラリーにて、2025年5月24日(土)～12月7日(日)の期間、「昭和100年展」を開催いたします。

■「畳のにおいと、柱の背くらべ」昭和の暮らしを懐かしみ、新しく体験する展覧会

1926年に始まり1989年に幕を閉じた昭和。もし昭和が続いているとすれば、2025年は昭和100年にあたります。第二次世界大戦を経て、戦後の復興から高度経済成長、バブル経済へとめまぐるしく変化した時代。社会の変化にともない人々の生活も大きく変わりました。

本展では、戦後の復興を経て高度経済成長期に入った昭和40年（1965）に焦点を当て、当時の社会や人々の暮らしを紹介します。1958年に東京タワーが建設され、1964年の東京オリンピックや1970年の大阪万博（日本万国博覧会）など、日本の高度経済成長を象徴するようなイベントが開催されました。神武景気、岩戸景気、オリンピック景気、いざなぎ景気と好景気が続き、1968年の日本の国民総生産（GNP）は、アメリカに次いで世界第2位となります。「三種の神器」と呼ばれた白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機は人々の憧れの的となり、家庭に普及していきました。

展示室内では、当時の暮らしを迫体験できる昭和40年の一軒家を再現します。手がけたのは映画『ALWAYS 三丁目の夕日』などで日本アカデミー賞最優秀美術賞を受賞した美術監督の上條安里。また、角川武蔵野ミュージアム館長・池上彰による昭和史を学ぶコーナーや、荒俣宏による昭和の遊びを紹介するコーナー、実際に昭和のおもちゃで遊べるコーナーなど、さまざまな角度から昭和を検証します。

メンコで遊び、縁側で休みながら、世代を超えて昭和の魅力をお楽しみください。

昭和100年展

—畳のにおいと、柱の背くらべ—

テレビの音と、お母さんの笑い声が、
いらん大きな声で、
柱の傷は、ぼくらの背だけを覚えている。
そこにあったのは、根柱と、母と、
そして、日々の生活。
今、あなたの記憶の奥に、小さなわたしに会いに行こう。



展覧会ティザービジュアル



【展覧会概要】

展示タイトル：昭和 100 年展

英語タイトル：Showa 100: A Century of Memories

会場：角川武蔵野ミュージアム 4F エディット アンド アートギャラリー

住所：埼玉県所沢市東所沢和田 3-31-3 ところざわサクラタウン内

会期：2025年5月24日(土)～2025年12月7日(日)

休館日：毎週火曜日、6月2日(月)～6日(金)（但し8月12日(火)、9月23日(火)は開館）

営業時間：10:00～18:00（最終入館は17:30）

展覧会公式サイト：<https://kadcul.com/event/225>

主催：角川武蔵野ミュージアム（公益財団法人 角川文化振興財団）

チケット価格(税込)：KCMスタンダードチケット（本棚劇場含む）

●オンライン購入（<https://tix.kadcul.com/>）、当日窓口購入

一般(大学生以上)：1,400円／中高生：1,200円／小学生：1,000円／未就学児：無料

※本展覧会の他、当館のスタンダードチケットエリア（常設展エリア）をご覧ください。

※展示替えなどにより、日程によっては一部エリアに入場できない場合がございます。

※「1DAY パスポート」チケットなどでも本展覧会をご覧ください。詳細は公式サイトでご確認ください。

* 休館日、開館時間は変更となる場合があります。最新情報、詳細は公式サイトでご確認ください。

* 展示内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。

■「角川武蔵野ミュージアム」について

図書館、美術館、博物館が融合した文化複合施設（館長：池上彰）。

初代館長の松岡正剛氏が世界を読み解く9つの文脈に沿って独自の配架をした「ブックストリート」、博物学者の荒俣宏氏が監修する「荒俣ワンダー秘宝館」、「本と遊び、本と交わる」をテーマにした「本棚劇場」、これら「エディットタウン」は当館のメインエリアです。本棚劇場では、360度を取り囲む高さ8mの巨大本棚にプロジェクションマッピングが映し出されます。

また、マンガや多数の出版社のライトノベルが並ぶ「マンガ・ラノベ図書館」や、企画展が開催される「グランドギャラリー」など、松岡氏が提唱した「想像力とアニメに遊ぶミュージアム」として、様々な「まぜまぜ」を提供します。建築デザイン監修は隈研吾氏、アート部門ディレクターは神野真吾氏。

公式サイト：<https://kadcul.com/>

X(旧 twitter)：https://x.com/Kadokawa_Museum

Instagram：

https://www.instagram.com/kadokawa_culture_museum

Facebook：

<https://www.facebook.com/kadokawaculturemuseum>

一般の方からのお問い合わせ：0570-017-396（受付時間：10:00-18:00）

■角川文化振興財団について

角川文化振興財団は「わが国の文化の振興に寄与する」という財団の設立目的実現のために、文芸の成果に対する授賞、文芸に関する出版、文芸の研究や著述の刊行への助成、映画芸術振興に関する助成、また文芸・映画資料の収集・保存・展示等、様々な事業を行っております。

公式サイト：<http://www.kadokawa-zaidan.or.jp/>



© 角川武蔵野ミュージアム

《報道関係者のお問い合わせ先》

公益財団法人 角川文化振興財団／角川武蔵野ミュージアム 広報（齋藤・中澤）

E-mail: kadcul@kadokawa-zaidan.or.jp

TEL:04-2003-8700（代表） FAX:04-2003-8704